

テクニカルセンター（技術情報）

サイレントインストールとは

BYOD では、アプリのインストール時に、利用者の許可が必要ですから、サイレントインストールは行えません。しかし、企業が会社支給のデバイスを大量に導入しようとする際には、サイレントインストールという魅力的な選択肢があります。インハウスエンタープライズアプリ（自社開発アプリ）は、以前からサイレントインストールが可能です。App Store アプリの場合は、iTunes にアクセスするために、Apple ID やパスワード入力が必要で、インストール時に、利用者の同意が必要だったので、サイレントインストールすることはできませんでした。

iOS 7 以降、管理機能を強化できる監視対象のデバイスに設定したときだけ、利用者の許可を必要とせず、アプリをサイレントインストールすることができるようになりました。しかし、これまでは監視対象のデバイスにするためには、Apple Configurator のインストールされた Mac コンピュータに一台ずつ USB 接続する必要がありました。

また、アプリのサイズによってはインストールに時間が掛かり、ネットワークに負荷が掛かります。さらに、アプリのインストールができて、アプリの設定ができなければ、手作業はなくなりません。そのため、MDM の機能を使わず、キッティング業者にインストールと設定を手作業でお願いすることにした企業がほとんどでした。また、App Store アプリのインストールには Apple ID が必要だったので、Apple ID を 1 台ずつ手作業で端末に登録したくないと思う企業も大勢いました。

Apple ID は、同一 IP アドレスから大量に取得されると、攻撃と勘違いしてブロックされてしまうので、Wi-Fi 接続でキッティングする場合には、iTunes Store サポートにメールで事前申請する必要があります。Apple ID を自動取得するプログラムを開発した会社もありますが、それでも 1 台ずつ Apple ID を端末に登録する作業はなくなりません。苦肉の策として、国内の大企業の中には App Store アプリを、自社開発アプリとして提供してもらい、Apple ID を使わずにインストールした会社もあります。しかし、海外のサードパーティ製アプリを使いたい場合には、Apple ID 取得の問題は避けられませんでした。

iOS9 以降、VPP に新しい機能（デバイス単位の管理配布）が追加され、Apple ID を必要としないアプリ配布が可能になり、ようやく大量の Apple ID を取得する問題を回避することが可能になりました。BizMobile Go! が目指してきたサイレントインストールという大きな目標がようやく実現可能になりました。デバイス単位の管理配布（VPP）と初期設定支援サービス（DEP）によって、iOS はさらに一步先に行くことになりました。

Google も Android 6 以降は、端末所有者モード（iOS の監視対象モードに相当）の場合に限り、サイレントインストールが可能になります。Windows 10 も、サイレントインストールを可能にすると発表していますが、現時点で実現できる環境・端末はありません。